

## 第3回 持続的な畜産物生産の在り方検討会 議事概要

1. 日時 令和3年4月27日（火）14:00～16:00

2. 開催方法 Web開催

3. 議事概要

### 【全体について】

- スマート畜産の推進によって労働者不足などにも対応できるが、これを活用することで3K産業から脱却して3C（Clean, Creative, Comfortable）産業にできるというような夢のあるような記載にしてもらいたい。
- 畜産も海外の食料を奪わない、飼料自給率をあげるという、うまくいっていなかった部分をやっていくということだが、飼料から家畜、そして土地に還元するという大きな循環が読み取れるような記載にしてもらいたい。
- 将来にわたって農業の生産力向上と持続性の両立を実現するための方策が検討されているが、これらを実現するためには関係者のみならず、一般国民を含めた意識改革が必要である。
- 本検討会「中間取りまとめ」が、「みどりの食料システム戦略」と同じ文脈で取りまとめられるものであることをもっと明確にできないか。目下の課題はもちろんわかるが、5年後、10年後の持続的畜産の在り方と方向を示すのが基本ではないか。

### 【堆肥について】

- 堆肥の流通については、畜産農家自らが適切な施設で適切に管理し、良質な堆肥を作るとするのが基本。利用率を高めるためには、耕種農家の要望を聞きながら合致したいものを作るということをより明確に生産者に伝えるべき。
- 堆肥の流通について、広域流通、輸出というのは将来的な姿ではないのではないか。
- 堆肥の流通について、地域内を前提としつつも、畜産業の多い地域や中山間地域などではやはり広域流通の取組が必要。
- 堆肥の流通は多様性があっていい。処理できずに野積みとなることが一番悪い。全部を自分の農地で処理できるわけではないので、広域流通もありえる。
- 堆肥の処理で強制発酵施設が強く出すぎている。基本は切り返しや水分調整を適切に行うこと。
- メタンの排出削減という点に着目されているが、堆肥施用による土壌の炭素蓄積や飼料作物による吸収といった可能性も大きいという点もある。生産者の努力として評価する点についても焦点を当てた方がよい。
- 堆肥の輸出については、輸入飼料の依存から脱却していこうとしているものの、現状からすれば輸入する分がかなりあるので、短～中期的には必要。

### 【アニマルウェルフェアについて】

- アニマルウェルフェアについては、科学的知見に基づいて推進することに賛成。
- アニマルウェルフェアについて、5つの自由に触れるなど、OIEで言われていること、現状ここまで取り組んでいるということを書き込んでもらいたい。
- 飼養管理指針を作ったり、生産者と話をしている中で一番感じるのは、アニマルウェルフェアと意識していないが、すでに家畜を飼う上での快適な環境を作るための努力をしており、アニマルウェルフェアには取り組んでおられる。設備面などで難しいところや課題はあるが、既にやっていることがある旨を記載した方がよい。

### 【まとめについて】

- まとめところで、日本の畜産業は一枚岩ではなく、アニマルウェルフェアや有機畜産なども取組の一つであり、こうした多様性について触れることが望ましい。
- まとめ地域性の部分については、全てが地域性を出すものではなく、一律に取り組むものもあると思う。そのあたりの書き分けをしてもらいたい。
- P19のまとめに記載した人材育成はもっと取組を推進する必要がある。

### 【その他】

- P4のIIの1の○4つ目及びP5の○3つ目、括弧部分、P16の(2)の4つ目の・部分、P17の6の(2)の①の10行目からP18の2行目、GAPが包含しているのはその通りだが、食品衛生や家畜衛生など個々の取組もあるはずなので、「～アニマルウェルフェアといった項目及びそれらを含む」と修正してもらいたい。
- P4のIIの2の○1つ目、環境負荷軽減と家畜衛生・防疫は分けてもらいたい。
- 脂肪酸カルシウムの記述について、現状は修正頂いたが、牛乳の自発性酸化臭の主たる要因ともなっているので、今後行うべき取組では「畜種の特性にも応じて」と修正してもらいたい。
- P13、水田の汎用化について、畜産サイドのメリットだけでなく、畑地化することで水田からのメタン排出の抑制につながるなので、推進してもらいたい。
- P13、「生産・流通段階では、」という部分で「放牧の推進」の一言だけなので、もう少し具体的に記載してもらいたい。
- P15、「研究段階では、」の部分で、除草ロボット等とあるが、その前に「畜力の利用や」という文言を入れてもらいたい。
- 労働安全、人権の部分について、外国人労働者を念頭においた記載となっている。しかし、日本人であっても若い人は、月に1度しか休みがなかったり、最低賃金以下で働いている事例がある。こういった点にも配慮してもらいたい。

- GAPやHACCPの推進という部分について、見える化に触れているが、安心安全なものとして販路が開く、あるいは一定の生産量を確保できるなど、生産者が夢をもてるようなまとめ方にしてもらいたい。
- 放牧や有機畜産をはじめ、持続性に係る取組は、ミルクサプライチェーンの特徴として、生産現場のみならずコストが掛かり増しとなる要素が大きい。消費者の理解醸成と政策的な支援も必要。
- 消費者の理解醸成の部分で、良質なたんぱく質の供給源としての記載はあるが、栄養バランスに優れた日本型食生活の推進という、持続的な栄養という視点にも結び付けた畜産物の供給の意義を記載してもらいたい。

—以上—